

# 2025年度／単年度計画



## ✈ 基本的な考え方

### 「安全安心な空港づくりを通じて 皆さまに笑顔と満足をお届けします」

安全・安心な空港運営を継続するとともに、空港関係者との連携により航空ネットワーク・空港利用者の早期回復を実現し、空港の持続的な成長に向けた施策を実行する。

- (1) 航空需要・航空ネットワークの回復や拡大の促進
- (2) 空港利用者の増加と利用者満足度の向上
- (3) 直営部門等の収益性向上
- (4) 社会インフラたる空港機能の維持向上
- (5) 社会的要請への対応や将来に向けた先行投資の実施
- (6) 持続的な経営のための会社各機能強化

## ✈ 旅客数等の目標値

区分	2024年度 (見込)	2025年度 (計画)
<b>旅客数</b>	<b>62万人</b>	<b>83万人</b>
国内線	42万人	48万人
国際線	20万人	35万人
<b>貨物取扱量</b>	<b>216t</b>	<b>300t</b>
国内線	70t	93t
国際線	146t	207t



2025年夏ダイヤ就航路線図 (2025年3月末時点)

## ✈️ 空港活性化に関する計画

### 旅客数及び貨物取扱量の増加

- 復便及び新規路線就航に向けた活動
  - ・新規路線実現に向けた市場分析・提案及び営業活動の実施
  - ・グランドハンドリング会社ならびに保安警備会社の受入体制確保・強化のサポート
- 搭乗率を向上するための活動
  - ・キャッチメントエリアの拡大・深耕（県東部・県西部・山梨県）
- 料金体制の整備
  - ・適切なPSFC単価設定に関する調整
- 二次交通の維持・強化
  - ・利便性向上を目的としたアクセスバス金谷線の運行便数増加
- 貨物取扱量の増加に向けた活動



路線誘致に向けた商談



山梨県でのイベント開催

### 空港利用者の利便性向上

- ストレスのない空港滞在時間の実現
  - ・ターミナルビルキャパシティ確保に向けた改修方針の検討
  - ・テナント店舗構成の検討およびリーシング方針の策定
  - ・直営事業の運営改善
  - ・レンタカー関連施設の再配置
- 二次交通の維持・強化



「食彩房あさふじ厨's」  
(2024年度新規出店)

### 入館者数の増加・ビジネスジェット等の利用拡大

- ターミナルビル入館者数の増加
  - ・集客イベントやテナントと連携した販促企画の実施
  - ・施設利用者が安全かつ快適に利用できるための適切な管理
- BJ等の利用拡大
  - ・新規駐機場の整備支援や取付道路の整備等によるビジネスジェット受入容量の拡充



集客イベントの実施

### 地域連携事業

- ・県内観光資源や空港資源を活用した旅行商品やイベントの造成
- ・「空のしおり-3776-」の利用促進・連携強化（販路の拡大等）
- ・地元企業や地域資源の認知度向上に寄与する広告等の営業推進



地域資源の魅力を伝える  
「日本酒セミナー」

### 任意事業

- 西側用地の賑わい施設整備に向けた本格検討
  - ・社会環境の変化を踏まえた事業計画の変更検討
- カーボンニュートラルに向けた取り組み
  - ・PPA事業者との連携による太陽光発電施設導入・稼働開始
  - ・空港脱炭素化推進計画を踏まえた具体施策の検討

## ✈️ 空港運用に関する計画

### 安全・安心の確保

- ・ 国際線の早期復便・就航を可能とする効率的かつ安全な保安体制の構築
- ・ 国際線保安検査場における旅客スループットの改善検討
- ・ 県とのA2-BCP体制の連携強化、計画の精査と対応力の向上
- ・ 安全表彰を通じた協力事業者の安全意識の向上、連携強化
- ・ 緊急時の適切な対応を目的とした空港運用監視体制の強化
- ・ 航空局の指針を踏まえた実効性のある航行不能航空機撤去計画の改定
- ・ 大規模工事における安全管理の徹底



協力事業者対象の安全表彰  
(2024年度)



航空機事故対応訓練  
(2024年度)

### 運営の効率化

- ・ LED航空灯火導入に向けたロードマップの策定
- ・ 航空局の新サービス「航空情報共有基盤（SWIM）」を活用した効率的かつ安全な空港運用体制の構築
- ・ 効率的な燃料管理業務の遂行に向けた設備管理システムの導入検討
- ・ ロボット等を活用した警備・清掃業務の省力化



滑走路・航空灯火



警備ロボット

### 施設の長寿命化及び更新投資の効率化

- ・ 被災法面の早期復旧と予防保全の強化
- ・ 灯火監視制御装置の更新等、中長期更新計画に基づく予防的な設備投資の着実な実施